

# 縦断型 プログラム

学年を超えて  
継続して学ぶことで  
医師・医学者としての  
資質をより高める。

## 学年を超えて継続する6つの縦断型プログラム

### 医学基盤プログラム

医学基盤プログラムは、縦断型プログラムの中心的な役割を担っています。主なプログラムは、医学概論、医学統合プログラム(SGLを含む)、医学実地演習(Early Clinical Exposure)、基礎科学特別講義、克己殉公・人文社会科学、医事法学、医療福祉論・医療倫理学、症候学・臨床医学概論、国際保健、医学工学、救急医学、形成・再建・再生・移植、医療の質と安全、リハビリテーション、基本臨床実習、臨床実習総括などで構成されています。

### 科学的探究

医学部教育では、医師国家試験合格を一つの目標とするだけでなく、学問としての医学に興味を持ち、卒業後の医学研究への動機付けや意欲を養うことが重要です。また、医師には、医学の進歩に関心をもち、科学的探究心を維持し、最新の知識と技術を修得する努力が求められます。そこで、本学の教育理念「愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成」の実現に向けた実践プログラムとして以下の2つの「科学的探究」を実施します。

- 1) 学生が主体となり、興味をもつ研究テーマを自由に選択する。学内外の研究室に一定期間所属し、研究に参加することで医学研究の基礎を学びます。
- 2) 一連の研究体験を通じて、論理的・批判的思考、課題解決能力を養い、「愛と研究心を有する質の高い医師や医学者」に必須の資質を養います。

### 行動科学

本講義では、医師になるために必須の知識・教養である行動科学(心理学)を扱います。行動科学は人間の心理、行動を科学的に研究する学問分野です。この講義では、感覚・知覚、認知、学習、発達、感情、社会などの心理学諸領域を中心に実験、観察、検査などの心理学的方法論に基づいて蓄積された心理学の基本的な成果を学び、これらの知見を通して人間理解を深めることを目標としています。

医師として、患者の理解に必要と考えられる心理学的な知識を修得し、1年次から3年次まで学んできた行動科学の内容を再確認した上で、人間の行動や心理の理解を深めるとともに、文化的社会的文脈のなかで人の心と社会の仕組みを理解するための基礎的な知識と考え方やリベラルアーツを学びます。

### 医療情報科学・データサイエンス

人工知能の医学・医療分野への応用という観点から、統計やコンピュータリテラシー、情報プライバシーの概念、人工知能の基本的な考え方、プログラミングなどについて学びます。

### 外国語教育

国際的に活躍できる医療従事者・医学研究者となることを目標とし、そのために必要な英語技能を修得します。あわせて、国際的な交流において求められるコミュニケーション技能を高めるとともに異文化への理解を深めます。この目標を達成させるために、第1学年から第4学年まで「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」が各年度に配当されています。

### 社会医学

社会医学とは、医療機関を受診した患者に対する診療行為である臨床医学に見合う形で、医療を社会的側面から理解するための専門分野です。保健・医療・福祉を三位一体として理解すれば、関連情報を適切に理解できます。本学における社会医学の一分野である「衛生学公衆衛生学」は、健康とは何かをまず理解するところから始まり、さまざまな疾病(感染症・生活習慣病・精神疾患など)の予防対策、健康の保持・増進活動、医の倫理、保健・医療・福祉情報管理やプライバシー保護、医療安全対策などを学ぶことになります。

## 主要科目紹介

## 医療情報科学・データサイエンス(人工知能概論)

最先端の情報科学の理解を深め、医療分野での活用につなげる。



担当教員 藤崎 弘士 教授

1993年早稲田大学理工学部応用物理学卒業。東京大学大学院にて博士(理学)号取得。2019年日本医科大学物理学教授。

人工知能の最新技術である深層学習(deep learning)を使った画像認識能力、車やドローンなどの完全な自動運転化時代、将棋や囲碁など、プロを打ち負かすプログラムの開発などによって、21世紀に入って、人工知能のニュースを見聞きしない日はありません。こうした状況下で企業はもちろんのこと、大学や研究機関でも人工知能をどう活用すべきかがテーマとなっています。

本ユニットでは「数理・データサイエンス・AIモデルカリキュラム」に則って、人工知能に関する入門的な授業を行います。最初にこれからの社会において重要なデータ思考から解きほぐし、データの種類や活用のためのシミュレーションに関する議論、データの表示や解釈の仕方、現実社会でのデータの活用方法、解析するためのデータサイエンスの必要性、最新の人工知能研究などについて概観します。授業の半分は討論やレポート作成のための資料づくりなどに当てられ、本学の医学部における特色として、実際の医療データを用いた講義や実習を行います。

## 外国語教育(英語)

国際的なコミュニケーションの場面に対応できる医師・医学研究者・医療従事者となるために、複雑な国際社会および異文化に関する多様な見識を身につけ、厳しい現実の状況に対応できる言語技能を修得します。

Reading, Writing, Listening Speaking のそれぞれの実践的スキルを訓練しながら、Academic Writing, Presentation, Discussionなどの課題に取り組むことによって、総合的な英語運用能力を高めます。また、英語の語源や文化の側面についての理解も深めます。

また、ヨーロッパ言語はもちろんアジア・アフリカ諸国を含めた言語・文化の多様性を学習し、世界の言語と文化を概観することで多言語の理解を深め、異文化環境に対する柔軟性を養います。

## 行動科学

医療者に必要な倫理観を身につけるために、本学の求めるコンピテンスおよび、医療における行動科学的視点を理解し、これらと関連付けながら日常生活を振り返り、考える態度や習慣を修得します。人間の行動や心理の理解を深める。また、医療者として必要なコミュニケーションを学ぶだけでなく、人間の行動変容に関する理論とその技法についても理解を深めます。

## STUDENTS VOICE

学生たちのメッセージ動画を  
ホームページで公開中!



大富 彩 医学部医学科2年

## 国際認証基準に対応したカリキュラムにひかれて

アメリカで修士を取得して帰国し、IT企業などで働いた後に医師を目指そうと決めたのは、人に貢献する喜びをよりダイレクトに味わえる仕事に就きたいと考えたためでした。この挑戦の場として選んだのが日本医科大学です。国際認証基準に対応したカリキュラムのある点が、将来的にアメリカの医師国家試験も受けたいと思っていた私にフィットしました。再受験生でも違和感なく溶け込めるフラットな雰囲気も魅力でした。これまでで印象に残っているのは、古代ギリシア語やラテン語に由来する語幹、接頭語を学ぶ授業です。膨大な英語の医学用語を、語形成を考えると無理なく吸収できることは非常に興味深かったです。また学生主導で自主的に行われている英語の論文の抄読会にも参加。実際の症例を扱っているため、医学英語に慣れるには非常に効果的でした。医学の勉強では膨大な知識を頭に入れなくてはならず、自分にできるかどうかと不安に思ったことがあったものの、知識と知識がつながることで理解が深まっていったときには成長を感じます。将来は先進国と発展途上国の両方で臨床に取り組む医師を目指します。